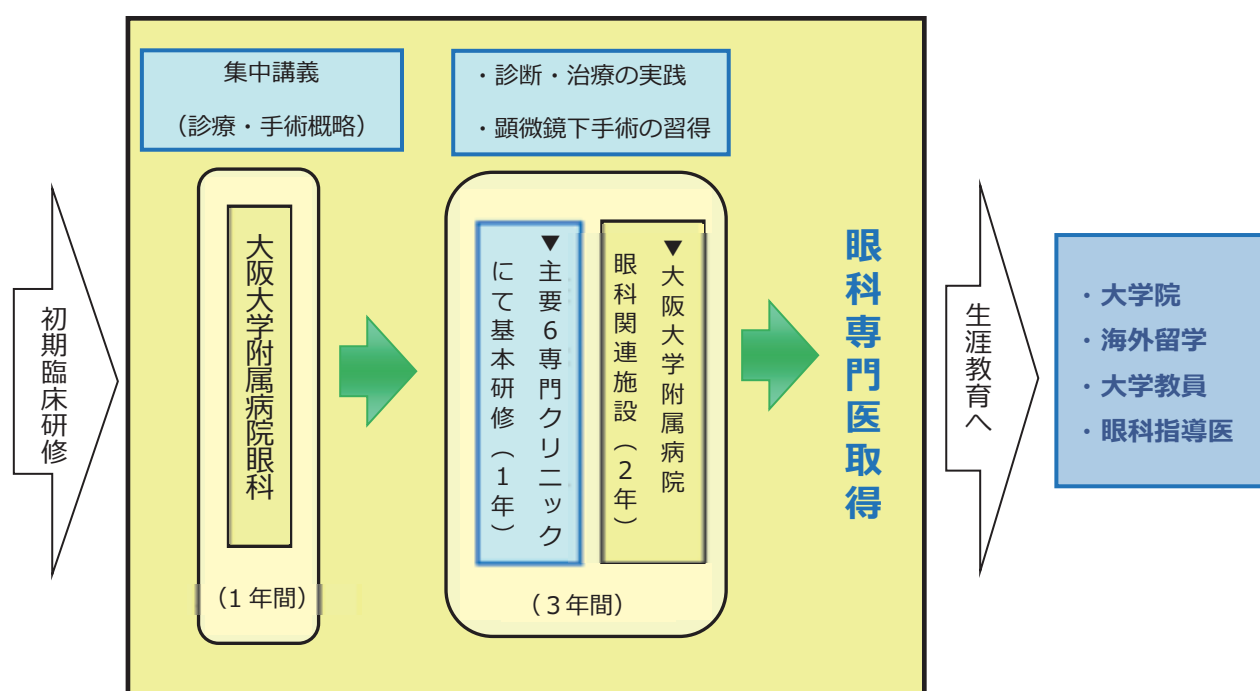


眼科専門研修プログラム

(1) プログラムの全体像

眼科臨床医として欠くことのできない基礎・臨床知識、検査・診療技術、顕微鏡手術技術を習得することを目標としています。本プログラムは4年間で構成され、終了時（卒後6年）に、日本専門医機構認定の眼科専門医の取得を目指します。最初の1年は基本的に大阪大学眼科にて研修を行います。まず集中講義により診療・手術の研修概略を教育し、その後、専門クリニック（角膜・メディカル網膜、サージカル網膜、眼炎症、緑内障、斜視・弱視、神経眼科、小児眼科、眼形成）を回ることで、1年終了後には一通りの疾患に対する基本的な考え方と診療技術が身に付くようにします。白内障や外眼部疾患の手術助手には、早期から積極的に参加させます。2年目からは、大阪労災病院（白内障手術／網膜硝子体診断・手術）、JCHO 大阪病院、大阪医療センター（白内障手術／緑内障診断・手術）をはじめとする大阪大学眼科関連施設において、外来診療、手術（執刀）、学会発表に主体的に参加させ、指導医のもとさらに掘り下げた教育を行い、眼科専門医として必要な知識と技能を習得させます。また、大阪府はシーリング対象地域のため、大阪府以外の地域への貢献が求められております。そこで当科では、より充実した研修を行っていただくため、シーリング対象外の地域の拠点病院のいくつかと連携しており、それらの施設でより実践的な研修を行っていただきます。研修修了後は阪大関連施設で勤務していただきます。



(2) プログラムの概要

基幹施設	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学 医学部附属病院	眼科	角膜・網膜硝子体・ 神経眼科・緑内障・ ぶどう膜炎・眼形成	43名	眼科の主要なサブスペシャリティを網羅し、診断および治療計画を学ぶ	9名	4年

（３）プログラムの実績

大阪大学および関連施設はいずれも、手術件数 1000-6000 件/年であり、眼科の主要なサブスペシャリティ（角膜、メディカル網膜、サージカル網膜、緑内障、斜視、小児眼科、神経眼科、ぶどう膜炎、眼形成など）を網羅し、診断、および、治療を学び、眼科医としての臨床経験を研鑽できるように図ってきました。眼科専門医取得後も、各サブスペシャリストとしての技能を高めるため幅広い臨床経験を積むことが可能です。

（４）プログラムの指導状況

大阪大学及び関連施設は日本眼科学会等各学会で指導的立場にある医師が責任者であり、眼科の主要なサブスペシャリティを網羅し、診断及び治療計画を立て実践することができるよう指導を行い眼科専門医の資格を取得できるように指導します。また、眼科専門医取得後も各サブスペシャリスト（角膜専門医、網膜硝子体専門医、緑内障専門医、神経眼科専門医、ぶどう膜炎専門医、眼形成専門医など）としての技能向上のため専門に特化した臨床経験を積むことも可能です。

（５）専門医の取得等

機 関	日本専門医機構（日本眼科学会がカリキュラム作成、実施）
資格名	眼科専門医
資格要件	教育病院での研修4年以上
【学会の連携等の概要】 大阪大学および関連病院はいずれも日本眼科学会認定教育認定施設である。	

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 眼科

担当者 丸山 和一

✉ edu@ophthal.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/ophthal/www/>

